

福岡県の主な農産物の生産状況

令和3年12月1日現在
(専技情報より抜粋)

◇大豆◇

11月19日現在の収穫進捗状況は77%（前年同期41%）です。
収穫作業は順調に進み、県南部は11月中に収穫終了しました。
県北部の収穫は12月上旬までかかる見込みです。
8月の大雨と9月下旬からの乾燥により生育量が少なく、粒肥大も劣ります。
裂莢による収穫ロスも見られるため、収量は前年（125 kg/10a）より少ない見込みです。
大豆株及びほ場が乾いたら速やかに収穫しましょう。
汚損粒の発生や収穫ロス軽減のため、コンバインの刈取り高さや速度を調節して収穫しましょう。

◇麦類◇

11月11日現在の播種進捗状況は0.4%（前年同期1.0%）です。
播種開始時期は降雨の影響により平年に比べやや遅れたましたが、順調に播種作業は進んでいます。
播種の最盛期は11月下旬で、大豆の収穫がやや遅れている県北部では、12月中旬頃までかかる見込みです。
適度な土壌水分となったら速やかに播種しましょう。
12月中旬以降に播種する場合には、播種量を増やしましょう。

◇冬春ナス◇

11月上旬まで日照時間が多く、好天に恵まれたため、生育は概ね良好で出荷量は前年より多いです。
11月中旬に出荷の山ができ、主枝の収穫は残り2～3果程度です。
今後、側枝の収穫に切り替わるため、出荷は減少する見込みです。
コナジラミ類、アザミウマ類、ハダニ類が散見されます。
今後、灰色かび病やすずかび病の発生に注意が必要です。
「PC 筑陽」は着果負担により樹勢が低下しやすいため、温度管理に注意し、適正な着果数を維持しましょう。
厳寒期は日射量が少ないため、日中に内張りカーテンを巻き上げ、側枝の芽の整理や、こまめな摘葉を励行し、新芽や果実への採光性を高めましょう。

日中の炭酸ガス濃度は 400ppm を維持し、日中加温（10:00～16:00、20℃目安）を組合せて厳寒期の生育促進を図りましょう。

◇ナシ◇

今年産の出荷は概ね終了しました。

今年度のナシは、各品種とも結実はやや前年より良好で出荷が前年より 7～10 日早かったです。

また、「豊水」「新高」等の中晩生種では、8月の長雨で肥大が促進されました。

全体の出荷量は、前年より多く、平年並みとなりました。

また、園地によっては8月の長雨による根傷みや「豊水」の一部園地で炭そ病多発による早期落葉がみられるなど樹勢低下が懸念されます。

黒星病、炭そ病対策として落葉処理などで越冬量の減少に努めましょう。

根傷みの発生した園地では、排水対策など樹勢回復に努めましょう。

せん定は充実した花芽確保に努めましょう。

また、「幸水」では発芽障害対策として、短果枝の利用割合を高めましょう。

施設栽培の被覆開始時期は、低温遭遇時間の推移等に留意して決定しましょう。

◇イチジク◇

今年度の出荷はほぼ終了しました。

10月以降の出荷は、概ね順調に推移しました。

今年度のイチジクは、前進出荷でしたが、8月の長雨・日照不足等の影響で、疫病、腐敗果が多発し、根傷みによる果実肥大不良がみられました。

11月中旬時点の出荷量は、前年並みで平年より少なかったです。

収穫終了後は残果の除去や落葉処理を速やかに行いましょう。

根傷み等による樹勢低下園では、客土や堆肥等の投入を行い、樹勢の維持・回復を図りましょう。

◇施設ギク◇

輪ギクの単価は、昨年と比べて9月と10月が高くなり、夏秋ギクの出荷期間である6～10月の平均単価は平年並となりました。

「精の一世」等の夏秋ギクは11月下旬まで出荷される一方で「神馬」等の秋ギクは11月中旬から徐々に増加しています。

年末出荷作型の生育は順調です。

白さび病の発生は少ないですが、ハダニ・スリップス類の発生が多いです。

白さび病は、低温・多湿条件が続くと発生するため、昼間の換気や適切な夜間温度を維持し、湿度の高めない管理としましょう。

また、燃油の節減を図るため、ハウスの気密性を高める等、保温性の向上に努めましょう。

◇肉用牛◇

和牛去勢の枝肉単価は、緊急事態宣言解除から外食消費が回復し、クリスマスや年末など季節需要が今後期待されますが、昨年度と同様の動きで価格は例年並みです。

省令価格(交雑種相当)は、前年比 92%、過去5年平均比 95%と低下しました。

鳥インフルエンザなど家畜伝染病等の家畜衛生対策を徹底しましょう。

また、気温が低くなることから子牛等の呼吸器病や下痢予防のため防寒対策を実施しましょう。